

平成25年行政事業レビューシート

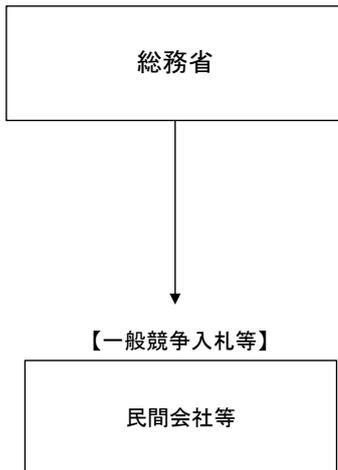
(総務省)

事業名	ICTによる新産業の創出		担当部署	情報通信国際戦略局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成26年度～平成30年度		担当課室	情報通信政策課		課長 大橋 秀行		
会計区分	一般会計		政策・施策名	V-1 情報通信技術の研究開発・標準化の推進 V-2 情報通信技術高度活用の推進 V-5 電波利用料財源電波監視等の実施 VI 郵政民営化の確実な推進				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条第65号、第66号、第79号 電波法第103条の2第4項		関係する計画、通知等	「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定) 「世界最先端IT国家創造宣言」(平成25年6月14日閣議決定) 「科学技術イノベーション総合戦略」(平成25年6月7日閣議決定)等				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	G空間情報、ビッグデータ・オープンデータ、次世代放送システム等のICTの活用による新たな産業やイノベーションの創出、ICT産業の国際競争力の強化を図り、我が国の経済成長に貢献する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<p>G空間情報の利活用を推進するためのプラットフォーム構築や防災分野等における実証、次世代放送システム(4K/8K、スマートテレビ)の技術検証等を行うとともに、放送コンテンツやICT活用システム、日本型の郵便インフラシステム等の海外への展開を推進し、新たな産業の創出とICT分野における我が国の国際競争力の強化を図る。また、イノベーションの創出に向け、最先端のネットワーク基盤技術の研究開発を行うとともに、ビッグデータやオープンデータを活用した新たなアイデアの具現化・社会実装に対する支援等を行う。さらに、電波利用ビジネスの一層の活性化を図るため、周波数の利用効率を高める技術等の開発を行う。</p> <p>(1)G空間プラットフォームの構築及び災害に強いG空間シティ構築等の新成長領域開拓のための実証 (2)放送コンテンツやICT活用システムの海外展開等によるICT産業の国際競争力強化 (3)ビッグデータ・オープンデータの活用の促進 (4)次世代放送システム(4K/8K、スマートテレビ)の普及・展開に向けた実証 (5)技術成果の具現化を支援する常時応募可能な公募制度の新設 (6)先進的な電波利用システムの創出に向けた研究開発 (7)日本型郵便インフラシステムの海外展開</p>							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	-	15,040	
	執行額	-	-	-	-	-		
	執行率(%)	-	-	-	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	あらゆる領域におけるICTの利活用の促進や社会インフラ・システム等の基盤の確立等により、産業が有する潜在能力の強化を図るものであり、定量的な成果目標の設定は困難である。			-	-	-	-	-
	活動指標		達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	あらゆる領域におけるICTの利活用の促進や社会インフラ・システム等の基盤の確立等により、産業が有する潜在能力の強化を図るものであり、定量的な活動指標の設定は困難である。			-	-	-	-	-
	-		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
単位当たりコスト	-		算出根拠	-				
平成25・26年度予算内訳		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	-	5	「日本再興戦略」や「世界最先端IT国家創造宣言」等に基づき取り組むべき施策について要求することとしたため。 「新しい日本のための優先課題推進枠」15,040				
	職員旅費	-	13					
	委員等旅費	-	3					
	電気通信技術研究開発調査費	-	6,185					
	郵政行政調査費	-	300					
	情報通信技術研究開発委託費	-	1,928					
	情報通信技術展開推進委託費	-	1,811					
	先導的情報通信社会基盤整備委託費	-	1,582					
	先進的地域情報通信システム開発委託費	-	1,189					
電波利用技術研究開発等委託費	-	2,024						
計	-	15,040						

事業所管部局による点検						
	項目	評価	評価に関する説明			
国 必 費 投 入 の 性 の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	「世界最先端IT国家創造宣言」等の工程表では、ICTによる新産業の創出に関する取組について、責任をもって主体的に取り組むべき府省が事項ごとに明確化されており、国が責任を持って取り組む必要がある。また、海外展開に当たっては、諸外国政府との折衝等が必要となるため、民間等単体での実施は困難である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-				
事 業 性 の 有 効	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-			
	事業番号	類似事業名			所管府省・部局名	
点 検 結 果	<p>本施策は「日本再興戦略」や「世界最先端IT国家創造宣言」等に基づき、ICTによる新産業の創出を図るものであり、国として責任を持って取り組むことが必要な施策であると認められる。</p> <p>本施策の実施にあたっては、調達における公正性、透明性、競争性を確保する等、予算の適正かつ効率的な執行に努めることとする。</p>					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシート of 事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

(平成26年度執行イメージ)



資金の流れ
(資金の受け取り
先が何を行っている
かについて補足
する)(単位:百万
円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額が
 支出されている者
 について記載す
 る。費目と使途の
 双方で実情が分
 かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

平成25年行政事業レビューシート

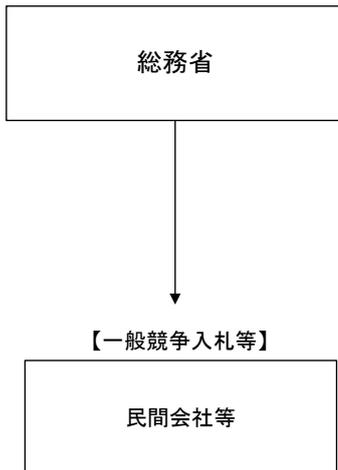
(総務省)

事業名	ICTによる社会課題解決の推進		担当部局	情報流通政局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成26年度～平成28年度		担当課室	情報流通振興課 情報流通高度化推進室		室長 田邊 光男		
会計区分	一般会計		政策・施策名	V-1 情報通信技術の研究開発・標準化の推進 V-2 情報通信技術高度活用の推進 V-4 情報通信技術利用環境の整備				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	総務省設置法(平成十一年法律第九十一号) 第四条第七十六号		関係する計画、 通知等	日本再興戦略 -JAPAN is BACK- (平成25年6月閣議決定) 世界最先端IT国家創造宣言(平成25年6月閣議決定) 健康・医療戦略(平成25年6月関係大臣申合せ)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔 に、3行程度以内)	我が国は超高齢社会の進展、世界的な資源需給の逼迫、社会インフラの老朽化、地域社会の衰退等の社会課題に直面している。これらの国家的課題解決のため、あらゆる政策ツールの総動員はもろろん、イノベーション創出や効率性、分野横断的な横串機能の観点から、ICTの利活用は極めて重要である。このため、医療・介護・健康、教育、交通、資源確保、インフラ管理等の社会的課題の解決や地域活性化に向け、実証や研究開発、国際標準化によりICT利活用を推進する。これにより、経済成長を成し遂げ、世界で最もアクティブな国になるだけでなく、社会課題解決先進国として国際社会に貢献する。							
事業概要 (5行程度以内。別 添可)	①スマートプラチナ社会構築事業 「スマートプラチナ社会」実現のため、ICT健康モデル(予防)の確立、医療情報連携基盤の全国展開、新たなワークスタイルの実現、ICTリテラシーの向上、医療・介護用ロボットの開発・実用化を目指す。 ②先導的教育システム実証事業 教育ICTの全国展開に向け、学校・家庭をシームレスにつなぐ教育環境の構築のため、クラウド等の最先端技術を活用したシステムの検証を行い、様々な端末に対応した低コストな普及モデルを標準化する。 ③ICTを活用した新たな街づくり実現のための実証 地域活性化や雇用の創出等、地域の複合的な課題解決のため、ICTを活用した新たな街づくりの普及展開に向けた共通プラットフォーム実現のための相互接続等の実証プロジェクトを実施する。 ④次世代ITSの確立に向けた通信技術の実証 安全・安心で快適な交通社会の実現のため、車と車、車と人等をつなぐ高度な無線通信技術を活用した安全運転支援システムの早期実用化を目指す。 ⑤海洋資源調査のための次世代衛星通信技術に関する研究開発 将来の国産資源として期待される海洋資源の調査を効率化するため、通信衛星を活用して洋上のブロードバンド環境(10Mbps級)を構築するための次世代通信衛星技術の研究開発を実施する。 ⑥スマートなインフラ維持管理に向けたICT基盤の確立 社会インフラの老朽化を踏まえ、ICTを活用したインフラの効率的な維持管理を実現するため、センサー等で計測したひずみ、振動等のデータを、高信頼かつ低消費電力で収集・伝送する通信技術等を確立する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	-	6,789	
	執行額	-	-	-	-	-		
	執行率(%)	-	-	-	-	-		
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標		/	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	広く社会課題解決に向けたICT利活用の促進を目的としているものであり、定量的な成果目標を定めることは困難。			成果実績	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		/	単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	実施したプロジェクトの件数			活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-
					(-)	(-)	(-)	(-)
単位当たり コスト	-		算出根拠	-				
平成 25 ・ 26 年度 予算 内 訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	-	6.0	「日本再興戦略」や「世界最先端IT国家創造宣言」等に基づき取り組むべき施策について要求することとしたため。 「新しい日本のための優先課題推進枠」6,789				
	職員旅費	-	12.9					
	委員等旅費	-	15.9					
	電気通信技術研究開発調査費	-	4,378.5					
	情報通信技術研究開発委託費	-	797.1					
	先導的情報通信社会基盤 整備委託費	-	1,579.0					
計	-	6,789						

事業所管部局による点検						
	項目	評価	評価に関する説明			
国 必 費 投 入 の 性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	社会課題を解決することで、国民生活の質が向上し、我が国の経済成長のボトルネックが解消される。これにより、経済の再生を図るとともに、課題解決の成功モデルを世界に提示するものであり、広く国民の利益に資する。また、「世界最先端IT国家創造宣言」において、責任を持って主体的に取り組むべき府省が事項ごとに明確化されている。国際機関などとの連携折衝、産学官の国内協力体制づくりを政府主導で進める必要がある。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○				
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○				
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-				
	単位当たりコストの水準は妥当か。	-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-				
事 業 性 の 有 効	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-				
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-			
	事業番号	類似事業名			所管府省・部局名	
点 検 結 果	<p>○本施策は、ICTを重要なツールとして活用し、我が国の様々な社会課題を解決することで、国民生活の質が向上し、我が国の経済成長のボトルネックが解消することにより、我が国の経済再生を果たすとともに、ICT活用による課題解決の成功モデルを世界に提示するものであり、広く国民の利益に資するものである。</p> <p>○「世界最先端IT国家創造宣言」の工程表で、ICTによる社会課題解決の推進について、責任を持って主体的に取り組むべき府省が事項ごとに明確化されており、国が責任を持って取り組む必要がある。また、国際機関などとの連携折衝、産学官の国内協力体制づくりを政府主導で進める必要がある。</p> <p>○本施策の実施にあたっては、調達における公正性、透明性、競争性を確保する等、予算の適切かつ効率的な執行に努めることとする。</p>					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	-	平成23年	-	平成24年	-

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

(平成26年度執行イメージ)



資金の流れ
(資金の受け取り
先が何を行っているかについて補足
する)(単位:百万
円)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					